

10月～12月の活動予定

10月の動き

- 1：第6回HSさやま調整員会議 (13:00～元気プラザ教室3)
- 3：第7回事務局会議 (9:30～堀兼公民館) 第5回運営委員会 (10:45～堀兼公民館)
- 5：第5回子育てプレイス奥富打合せ (16:30～)
- 8：学童保育室長会議 (9:00～奥富学童保育室)
- 15・22・29：HSさやま訪問支援員養成講座 (10:00～元気プラザ教室3)

11月の動き

- 5・12・19・26：HSさやま訪問支援員養成講座 (10:00～元気プラザ教室3)
- 5：第8回HSさやま調整員会議 (13:00～元気プラザ教室3)
- 7：第8回事務局会議 (9:30～堀兼公民館) 第6回運営委員会 (10:45～堀兼公民館)
- 9：第6回子育てプレイス奥富打合せ (16:30～)
- 12：学童保育室長会議 (9:00～奥富学童保育室)

事務局たより



スタッフ募集！！

なかなか手ごわいコロナ禍はさまざまな影響を生み自粛生活を強い、暮らし方の変化、働き方の多様化を進めました。緊急事態宣言が解除されてからも人との接し方や消毒に重点を置く生活は、引き続き励行することが求められています。

当会の各事業所は、小さな子どもから学童期の子どもまでを対象にしており、毎日の遊びや過ごし方に工夫をこらし、これらへの心くばりには大変な労力を伴い、努力するスタッフの姿に感動を覚えます。冬に向かう季節となり、寒暖の差が激しくなる候、会員、役員、スタッフの皆さまには、健やかに過ごされますようお祈りいたします。

TEL&FAX：04-2957-0451 MAIL：yotuba-2006@qj9.so-net.ne.jp へご連絡ください。お待ちしております。

★下記の表は2020(令和2)年度の各部署のスタッフ構成です。事務局会議・運営委員会を第1土曜日に、学童保育室長会議を第2木曜日(事務局出席)に行い、運営がスムーズにいくよう努力しています。

NPO 法人会員の状況: 正会員27名

準会員18名、賛助会員19名

会員の方々のご支援が会の基盤です。新しい会員さんを募集しています!! よろしくお祈りいたします。

事務局: 8名

粕谷文勝・忍成俊一
諸澤富久枝・石森幸雄
佐藤洋子・宮本雄司
大賀明子・諏訪きぬ

運営委員会: 10名

宮崎雅代(よつばのおうち)・
斎藤裕美(学童保育)・西本
桜子(プレイス)・山根静子
(訪問事業)・事務局(6名)

学童保育室長会: 4名

柴田浩代・玉田京子・
斎藤裕美・石居福子
食育係: 4名
蜂谷千枝子・河野順子・
西孝子・伊藤清乃

15：第3回理事会 (14:00～狭山台公民館) 書面予定

12月の動き

- 1・10・17・24：HSさやま訪問支援員養成講座 (10:00～元気プラザ教室3)
- 5：第9回事務局会議 (9:30～堀兼公民館) 第7回運営委員会 (10:45～堀兼公民館)
- 7：第7回子育てプレイス奥富打合せ (16:30～)
- 10：学童保育室長会議 (9:00～奥富学童保育室)
- 16：4学童保育室スタッフ研修会 (9:30～11:00)

第5回家庭訪問支援員(ボランティア) 養成講座開催!!!

隔年に開催しております。開催の有無に悩まされましたが、熱意ある問い合わせもあり、十分に注意を払いながら開催することになりました。

期日：10月15日(木)～12月24日(木)

週1回・全11日

時間：10時～12時 (2回は10時～15時30分)

会場：元気プラザ教室3

受講生：6名(申込済決定)

NPO法人さやま保育サポートの会だより

第70号
2020・10・20発行

NPO法人さやま保育サポートの会事務局：〒350-1304 埼玉県狭山市狭山台3-8-12 よつばのおうち内

TEL&FAX：04-2957-0451 MAIL：yotuba-2006@qj9.so-net.ne.jp

http://sayama-portal.jp/sayama_hoiku_support/

NPOと共に歩んだ15年前NPOさやま保育サポートの会代表諏訪きぬ

① 私が何で市政功労者に?

今月初めに狭山市役所秘書から届いた封書には「市政功労者」として表彰するとの通知がありました。「日時」は10月31日、会場は市民会館小ホール。これはNPO さやま保育サポートの会への表彰ではないの?

NPOを立ち上げてからの15年間、運営に四苦八苦し続けてきた盟友たちと共に列席したいと、本心思います! ワンチーム表彰なんですよ!!

③ 全国バージョンもいけれど・・・

狭山に50年近く住んでいるのに、未だに流民意識が抜けません。私のふるさとにはなかなかない。けれども「全国バージョンで飛び回っているのもいいけれど退職したら寂しくない」と狭山にも一つの軸足を置くことを進めてくれたのは、公民館にいた落合禮子さんでした。平成11(1999)年4月にはさやまのファミサポ講習会で出会った柏原の鈴木久子さん等12名で「子育てネットあいあい」を設立(代表諏訪)。柏原公民館でその活動は今も続いています。

② 4人のじいとばあが担った実働部隊

平成17(2005)年10月1日中央公民館での設立総会はわずか14名(2名は書面)の出席者でした。そこで理事8名(諏訪きぬ、田島珠子、竹内朋子、山下寛、榎田三子、豊泉尚美、諏訪義英、佐藤雅敏)と2名の監事(岡野弘子、山根静子)を選出し、NPO立ち上げの中心を担った佐藤洋子は事務局に回ることにして、NPO号は出帆しました。

当初の運営資金として諏訪夫妻・佐藤夫妻・田島・竹内・横田が5万円ずつ拠出し、翌3月にはよつばのおうちが動き出します。運営に当たる実働部隊は佐藤・諏訪・田島・横田の4名。「よつば」は「よつばのクローバー」の意を重ねて「4人のばあ&じい」の意味が秘められていたことをご存じでしたか?

④ 子育てネットワークを張り巡らそう!

狭山知らずの私がこうして狭山の子育て支援ネットワークづくりに夢中になれたことは、80歳を生きる私の宝物となっています。落合さんの一言は大きかったし、「あいあい」との出会いが「地域」を視座に活動する意義を考える場となりました。そうした時を経て、「まだ保育がしたい」という佐藤さんを助けてNPO立ち上げに至ったのです!

ここまで活動してきた中心軸(信念)は、「子育てしやすい街さやま」にするために子育てネットワークを張り巡らすことでした。NPO内部にもあれこれ作りましたが、外部では「さやま子育て支援ネットワーク」の設立が私の仕事として楽しい思い出です。

公開セミナーへようこそ・NPO代表大賀明子

気がつくと、一気に曼珠沙華の花が咲く季節になっていました。誰もが終息に向かうことを期待していたCOVID-19(新型コロナウイルス感染症)ですが、一向にその気配はありません。このウイルスと共にどう暮らしていくか、私たちの知恵の見せ所が問われているのでしょうか?

そのような中、埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)主催「2020年度地域交流委員会<教育連携事業>公開セミナー」を西武文理大学が担当することになりました。「Withコロナ時代の”支援”を考える」というテーマの下、「COVID-19の拡大と子育て子育て支援の実際」として報告いたします。非日常の状況の中での日常を守る地道な取り組みを是非お聞き下さい。Withコロナ時代に生かせる知恵や実践を共有できたらいいですね。

埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)*主催
「2020年度地域交流委員会<教育連携事業>公開セミナー」

開催日時
2020年10月25日(日)
14:00～16:00

参加費 無料

みんなでいっしょに!
withコロナ時代の『子育て・子育て支援』を考える

開催場所
狭山市市民センター
コミュニティホール

感染防止対策のため
会場参加者数には
制限を設けております

動画配信の要請による遠隔参加も可能です

プログラム
開会 大賀 明子 (西武文理大学看護学部保健看護学教授)
基調講演 COVID-19と子育て・子育て支援の実際
講演 諏訪 きぬ (NPO さやま保育サポートの会代表理事)
COVID-19拡大と子育て・子育て支援の実際
基調講演「新狭山第1学童保育所」 諏訪 裕美 学童保育
家庭訪問型支援「ホームスタートさやま」 山根 静子 学童保育
地域子育て支援拠点「奥富プレイス」 西本 朋子 学童保育
在宅勤務と子育ての両立
講演 渡辺 真由 (西武文理大学看護学部小児看護学教授)
質疑・ディスカッション

申し込み・お問い合わせは
QRコード、または下記へ
西武文理大学(04-2954-7575)
サードフロア/ホールセンター
sic@buwh-c.ac.jp

後援 狭山市
NPO法人さやま保育サポートの会

TJUP地域交流委員会: 十文字学園女子大学・西武文理大学・東武大学・東亜大学・文京学院大学

よつばのおうち

金木犀の香り漂う秋空の下で、のびのびと身体を動かし元気に遊んでいる子どもたち。散歩先の公園では、滑り台や鉄棒、ブランコ、大型遊具に積極的に挑戦する姿が見られます。自分の背丈より高い遊具に登るのは勇気があるものの、達成感は格別。やり遂げた時の『どうみて!』といった、自信に満ち溢れた表情はなんとも言えず嬉しい顔です。

コロナ禍で、体力低下も気になっていたのですが、活動的に過ごしている様子にほっとしています。たくさん身体を動かした後は、しっかりエネルギー補給。たくさん食べて、ぐっすりお昼寝です!

午後のおやつ後は、毎日日が暮れるまで、どろんこになりながら、外で元気に遊んでいます。



子育てプレイス奥富

子育てプレイス奥富は、皆さまのおかげをもちまして12年目を迎えることができました。10月2日には、利用者の皆さんと一緒に祝い会をしました。今年は、新型コロナウイルス拡散防止の為に、制限を設けての祝い会になりましたが、スタッフによるカエルのパペットやパネルシアター、マジックを披露したり、音楽に合わせてみなさんと一緒にダンスをしたり、とても楽しく和やかな祝い会でした。これから少しずつ事業も再開していく予定です。大変な時期は続いています。利用者さんみなさんがほっとでき寄り添える居心地の良い場所であるよう、スタッフ一同頑張っています。



(プレイス入口の柿です)

奥富学童保育室

学童の窓から見える黄金色の田園風景を見て一句・・子ども達は川柳や俳句をよんで楽しんでいます。外に出ると8月はセミ捕り、9月はトンボ捕りを楽しみ、ふと足元を見ると、カエルがぴょんと子ども達に踏まれまいと逃げます。そのカエルを捕まえては田んぼに帰している子ども達の姿がありました。自然豊かな奥富では小さな命も大切に思う気持ちが育っていると感じています。

新年度も半年が過ぎましたが、コロナ禍で今も一人遊びが中心です。そんな中アイロンビーズでドラえもんや鬼滅の刃等を作ったり、木工制作では家や船、車やロケット等を作っていました。これらの作品の下で、親子でお茶をしながらゆっくりとした時間を過ごしてもらいたく作品展を開きました。コロナ禍であっても工夫をして楽しめる行事を考えていきたいと思っています。

新狭山小学童保育室

「絵本の読み聞かせ」を再開しました!

コロナ禍の中、子どもたちが一緒に何かをするということが無くなり、一体感を味わうことがむずかしくなりました。そこで、「読み聞かせ」を再開したところ、絵本に向かう子どもたちの姿がとても真剣で、その時間と空間がゼリーのようです。読み終わった後の子どもたちの感想の交換が楽しいひと時となっています。

ディスタンスを取り、密にならないように注意しながら、続けていこうと思います。

「自由工作」はアイデアとひらめきの宝庫

アイスやお菓子の空き箱、ヨーグルトやゼリーのカップ、ダンボール、新聞紙、包装紙、厚紙等を使って作る子どもたちの作品は本当に素晴らしいです。ダンボール箱2箱分の材料がアツという間になくなってしまいます。珍しい材料が入った時には、ジャンケンが始まり、勝った歓喜の声と負けた溜息が入り乱れ・・・でも次の時は遠慮するなど、譲り合い、助け合い、褒めあい、友だちを思いやりながら楽しい時間を過ごしています。

柏原小第一学童保育室



コロナ感染、熱中症予防の暑い日々から、過ごしやすい季節になりました。今年の中秋の名月は見事でした。お迎えが遅い子どもたちと校庭に出て鑑賞しました。

9月恒例の「敬老の集い」は出来ず、子どもたち手作りの折り染めの花立てとペーパーフラワーを祖父母の方々にプレゼントしました。10月末には作品展を計画しています。コロナ禍の中ひとり遊びで作成した木工、絵、折り紙、工作、ワミーやうQを組み立てた作品の数々を展示します。今は子どもと会場飾りの準備をしています。11月には勤労感謝に向けてのプレゼント作り、12月の親子交流事業の「ホッと汁粉会」は感染予防対策をしながら、どのように出来るかお案中です。

そんな中、子どもたちは元気に「ただいま〜」と登室しています。おやつで一息つき、自ら、学童で宿題を終わらせようと取り組んでいる姿が多く見られます。外遊びではパワー全開で遊びに興じています。子ども時代の異年齢の関わり、大切にしたいものです。

御狩場小学童保育室

新型コロナウイルスの猛威に振り回されながら、半年以上が経ちました。子どもたちは(さすが小学生!)“手洗い・消毒・マスク”の生活にはだいぶ慣れてきました。でも、「ソーシャルディスタンスを守る」ことや「大声を出さない」ことは、守れない時もしばしばあります。群れて遊びながら成長していくのが子どもですから。そのリスクをできるだけ取り除いてあげることが大人の役割だと思います。

特に食事やおやつの際は、マスクを外しますから職員は神経を使います。御狩場小学童は部屋がひとつしかないの、低学年と高学年に分けて半数ずつ食べます。残りの半数は外遊びです。この時だけ、机の中央に透明の壁を設置します。ペットボトルと支柱とテーブルクロスで作った手作りですが、子どもたちに抵抗が少ないよう配慮しています。



保育サポート研究所

諏訪前代表理事から、バトンを受け取りました。実際のところ、保育サポート研究所として何が出来るのか、何をしなければならないのか、子どもが言葉を話し出す前の「内言」を蓄え、正しく「外言」として話せるよう準備しているような心持ちです。

私自身は助産師であり、大学に籍を置いていますので、女性に寄り添い女性が生きることのいろいろな形で支えたいと思っています。

これまでの本会の実践を糧に COVID-19 とともにうまく生きていく知恵も探したいと思っています。

ひとまずは、公開セミナーで本会の子育て支援の実際をいろいろな方々に届けてまいります。



ホームスタートさやま

今年は春からのコロナ禍のために、家庭訪問がなかなか進みませんでした。今現在5件の訪問を行っており、4月~9月の合計は、
訪問家庭数11件、
延べ訪問回数25件でした。

自粛生活の中で子どもたちが運動不足に陥り、活力を発散できずに悪循環となり、リズムが崩れ不機嫌、うまく回っていかないケースがありました。お母さんの負担がいつもより増しているようです。また、申し込んだ後に、家庭の都合(帰省、父親の在宅勤務、やはり自粛する)等、中止せざるを得ないケースや訪問延期ケースがありました。訪問家庭数や訪問回数は少ないが、大事に至らないよう観察・傾聴、電話での様子伺いなど、その対応に神経を使った訪問調整員でした。

訪問調整員(オーガナイザー)も訪問支援員(ピジター)も健康に留意し、手洗い・消毒・マスクの3種の励行を怠らず乗り越えたいと思います。